だいせん市議会だより

あなたのギカイ

令和８年11月１日　第86号　令和８年第３回定例会の内容をお伝えします。



未来へつなぐ森林づくり

ふるさと大仙を次世代へつなぎ、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティだいせん」の実現に向けて、将来の林産業を担う大曲農業高生と秋田林業大生との合同植樹体験会を行いました。

未来へつなぐ森林づくり植樹体験会（10月８日 西仙北地域市有林）



CONTENTS

こんなことが決まりました……P２
令和７年度決算審査……P４
聞いてみたいなこんなこと……P６
行政視察報告等……P12
市政懇談会報告……P14
きかせて！あなたのミライ……P16

第３回定例会 議案審議

大仙市のこんなことが決まりました

第３回定例会　会期29日間　８月21日～９月18日

令和８年
第３回定例会

第３回定例会

人事案	９件
条例案	８件
単行案	５件
補正予算案	４件
決算認定	１９件
陳情	２件

今号では
この中から
４つを Pick up

全ての議案名と審議結果は、大仙市議会ホームページをご覧ください。

議案の審議結果

Pick up 1

〈議案第114号〉令和８年度大仙市一般会計補正予算（第５号）

子どもたちをツキノワグマ被害から守る

ツキノワグマによる人身被害から子どもたちを守るため、各小・中学校に備え付けのクマ対策用消耗品を追加購入（補充）するとともに、部活動など屋外活動時に活用できる音響機器（サイレン）を新たに購入。秋の出没ピークに備え、対策をさらに強化します。

こんな質問が出ました

Q クマ対策のための追加購入品は、使用したために補充するものか、また、クマよけスプレーの使用実績はあるのか伺う。

A 爆竹、雷管、忌避剤は各校で活用している。クマ避けスプレーは各校に５本ずつ配備しており、現時点で使用した実績はないが、不測の事態に備えて教育委員会事務局にも配備するもの。



各小・中学校に追加配備するツキノワグマ対策用消耗品

〈議案第114号〉令和8年度大仙市一般会計補正予算（第5号）

Pick up 2

大雨被害を受けた農家を支援

7月29日から8月2日までの大雨で農地・農業用施設が被災したことを受け、被災箇所の復旧に当たる農家の負担を軽減し、経営の安定を支援するため、復旧費の一部（復旧経費の2／3以内）を支援します。

◆**対象**／1カ所当たりの復旧費が5万円以上40万円未満の災害復旧

こんな質問が出ました

Q 被災農家にとって、補助金以外の自己負担分（1／3）の負担が大きいが、国や県のかさ上げ補助が該当となる可能性はあるのか伺う。

A 県単独事業でかさ上げ支援があるが、全県の被害額に起因した発動要件があり、現時点では県全体の被害状況がまとまっていないため情報が届いていない。県への被害報告は済ませており、発動された場合は速やかに農家へ周知したい。





大雨の被害状況（写真左から中仙地域、協和地域）

〈議案第114号〉令和8年度大仙市一般会計補正予算（第5号）

Pick up 3

物価高騰対策として対象事業者に給付金

◆**対象**／市内に事業所のある中小企業、または市内に住所のある個人事業主で、製造業、建設業、卸・小売業、自動車整備業のいずれかを営む事業者

※給付要件などは、市のホームページ（右下のQRコードから）を確認してください。

◆**給付額**／1事業者当たり10万円または20万円

詳しくはこちら（市ホームページ）

〈議案第114号〉令和8年度大仙市一般会計補正予算（第5号）

Pick up 4

住民税非課税世帯に灯油等の購入費を助成

物価高騰と不安定な中東情勢の影響による燃料費の高騰が続く中、低所得世帯に灯油などの購入費の一部を助成し、生活費が増加する冬期間の市民生活を支援します。

◆**対象**／市内在住の令和8年度住民税非課税世帯

◆**助成額**／1世帯当たり6500円

詳しくはこちら（市ホームページ）

令和7年度決算を認定

9月7日・8日・9日に各常任委員会で令和7年度決算の審査が行われ、9月18日の本会議で全会計の決算が認定されました。各委員会の主な審査意見をご紹介します。

令和７年度会計別決算

（単位：円）

会計名			歳入（収入）	歳出（支出）
一般会計			53,291,971,243	50,850,365,047
特別会計	国民健康保険事業		7,967,076,499	7,564,960,965
	後期高齢者医療		1,266,426,985	1,266,045,575
	学校給食事業		1,154,346,754	1,128,289,754
	奨学資金		35,807,603	19,757,315
	企業団地整備事業		17,159,824	17,159,824
	スキー場事業		136,772,314	136,772,314
	太陽光発電事業		154,167,693	147,587,986
	小水力発電事業		758,589	758,589
	財産区（６地区）		26,002,048	22,743,723
企業会計※	市立大曲病院事業	収益的収支	1,001,145,955	955,090,966
		資本的収支	152,592,000	211,812,967
	上水道事業	収益的収支	866,564,104	775,347,482
		資本的収支	41,260,176	413,719,214
	簡易水道事業	収益的収支	1,243,755,365	1,074,755,703
		資本的収支	300,292,000	910,598,245
	下水道事業	収益的収支	3,326,227,386	2,775,851,755
		資本的収支	1,462,910,340	2,335,556,059
合計			72,445,236,878	70,607,173,483

※企業事業について、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、損益勘定留保資金等で補てんしています。

総務企画常任委員会

○**市の財政運営および基金全般**…人口減少が進み、財政も厳しい状況の中、市債発行額の抑制に努め、健全な財政運営のため一生懸命取り組んでいる財政当局の並々ならぬ努力に敬意を表したい。今後もその姿勢を貫いていただきたい。
なお、基金全般については、金利上昇を考慮し、基金の価値を高められるよう、運用も視野に入れながら積み立てを行われたい。

○**消防団員の確保**…特に中山間地域で消防団員数が減少しているが、課題等を検証しながら消防団の再編や分団の統合など、将来を見据えた広域的な対策を進められたい。

○**コミュニティＦＭ関連事業費**…今後、放送設備の更新が必要な時期になると思われるが、事業の継続は昨今の技術革新も踏まえ、更新費用なども勘案した上で検討されたい。

○**企画関連経費**…情報収集や事例調査のための経費が少なすぎる印象を受ける。視察先が限られることのないよう、必要な予算をかけて現地に足を運び、見るべき所を見て広く調査し、市の政策につなげられたい。

○**広報活動費**…市の広報媒体の中心である広報だいせん日和は、特に訴求力のある表紙写真が、市民のほか他市町村から大変好評であることを評価したい。
広報紙は、幅広い年齢層に情報を伝えるものである。高齢の読者層も多いため、今後も分かりやすく伝わりやすい情報発信に努められたい。

教育厚生常任委員会

○**証明書自動交付サービス（コンビニ交付）**…市民の利便性向上のみならず、窓口職員の業務負担軽減を推進できるよう、さらなる利用率の向上に努められたい。

○**各種がん検診**…検診による疾病の早期発見は、重症化予防や将来的な医療費の抑制にもつながることから、受診しやすい環境をさらに整備するとともに、対象者に応じた効果的な受診勧奨を行うなど、受診率の向上を図られたい。

○**スクールバス運行事業**…児童生徒数の減少や学校統合・再編などの状況に応じ、運行経路や車両台数・規模を適切に見直しながら必要な運行体制を確保し、引き続き安全な通学の確保に努められたい。

○**市立大曲病院**…経営強化プランの未達成項目について具体的な改善案を講じ、新規患者の受け入れや病床稼働率の向上をさらに進め、医業収益の確保を図られたい。また、職員配置や委託料等の経費も検証し、能率的な経営を進めることで、一般会計からの繰り入れの縮減と持続可能な病院経営の確立につなげられたい。

産業建設常任委員会

○**農業経営等復旧・再開支援事業費**…被災農家を漏れなく支援するため、機動的に予算措置を講じられた対応は速やかであった。近年の激甚化する気象災害に対し、今後も被災農家の早期営農再開を支えるセーフティネット機能を維持するとともに、査定や現地調査の

迅速化を通じ、的確な事業実施に努められたい。

○**有害鳥獣駆除対策事業費**…クマ出没多発等により対策強化が求められる中、免許取得助成を活用した人材が地域の担い手（実施隊員）として定着していくことが重要である。猟友会等と連携した実践的な指導機会の確保や受入環境づくりにより、持続的な捕獲体制の構築を図られたい。

○**花火産業推進プロジェクト関連事業費**…令和10年度の「大曲の花火」第100回記念大会を見据える中、市が目指す国際花火シンポジウムの招致実現に向けて、国際的なPR活動を着実に進めるとともに、関連団体等との十分な協議を重ね、第100回大会への機運醸成と花火を核とした地域経済の活性化に引き続き努められたい。

○**集中豪雨などによる水害対策**…近年頻発する局地的な集中豪雨や線状降水帯による水害から市民の命と財産を守るため、引き続き、市管理河川の浚せつや護岸補修、除草等の維持管理予算を十分に確保し、河川の流下能力向上に取り組まれたい。また、氾濫時に甚大な浸水被害が懸念される雄物川流域をはじめとする国・県管理河川についても、堆積土砂の撤去や治水対策を推進するよう、引き続き関係機関へ働き掛けをされたい。

○**上水道事業会計および簡易水道事業会計**…経年劣化に伴う配水管からの漏水が増加し、年間総配水量が増加する一方で有収率の低下傾向が続いている。貴重な水資源の損失を防ぎ、将来にわたり安定的な給水を維持するため、老朽管の更新・耐震化を計画的に推進し、漏水箇所の早期解消と有収率向上に一層努められたい。

討論　第3回定例会で討論された内容を紹介します。

令和7年度大仙市一般会計歳入歳出決算の認定について（議案第130号）に対し、次の意見がありました。（このほか2議案、1陳情に対し、意見がありました）

反対討論

佐藤　文子　議員（日本共産党）

令和7年度一般会計当初予算審議において、公務員の給与削減の一環である配偶者手当廃止の問題、市税や国保税など収納率向上のため、滞納分の催告業務を民間業者に委託した問題、さらには行政のデジタル改革として多額の予算を計上し、ガバメントクラウドの利用を前提に進められている基幹業務システム標準化の問題を指摘し反対した。本決算は、その執行であり、認めることはできないため、反対討論とします。

賛成討論

佐藤　芳則　議員（けやきの会）

令和7年度は、人口減少、少子高齢化、物価高騰など、市民生活と市財政を取り巻く環境が一層厳しさを増す中、市民生活を守るため各種施策が実施されました。一方、財政調整基金、市債残高、公共施設の維持管理、市立大曲病院をはじめとする公営企業への財政負担など、将来に向けて解決すべき課題もあります。決算認定に当たっては、単なる執行結果の確認にとどまらず、事業の必要性、費用対効果、将来負担を厳しく検証し、限られた財源を市民生活と大仙市の未来に重点的に配分することを求め、賛成討論とします。

令和８年第３回定例会　賛否一覧

この表は賛否が分かれた案件のみ記載しています

議案等名 ＼ 会派・議員名	議決結果	だいせんの会						たすきの会						けやきの会						公明党		日本共産党	市民クラブ	参政党	新政会
		髙橋 徳久	佐藤 芳雄	高橋 智也	古谷 武美	橋村 誠	石塚 柏	山谷 喜元	橋本 琢史	門脇 智宏	後藤 健	青柳 友哉	佐藤 隆康	佐藤 育男	大山 利吉	安達 成年	佐藤 芳則	本間 輝男	秩父 博樹	挽野 利恵	佐藤 文子	菊地 伸	小須田逸子	小笠原昌作
議案第119号　大仙市営協和スキー場条例及び大仙市営太田スキー場条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○
議案第121号　大仙市公園条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○
議案第130号　令和7年度大仙市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○
陳情第14号　フッ化物洗口を中止することを求める陳情書	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	議長	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●

○：賛成　●：反対　　議長は採決に加わりません。

一般質問

聞いてみたいな こんなこと



一般質問とは？

皆さんの生活に関わる大切な内容について、市議会議員が市に対して質問を行います。今回の一般質問であなたの生活に関わる内容はありますか？

質問議員 12人　質問項目 17件

一般質問の全ての内容を動画で視聴できます。
各議員顔写真の下にあるＱＲコードを読み取り、ご覧ください。

市議のQ&A 市の

気候変動による猛暑対策のさらなる強化について



菊地　伸
（市民クラブ）

Q クーリングシェルターの拡充や高齢者等への見守り・声掛け体制、農業設備の導入に対する市の支援策、渇水対策、豪雨時の情報発信手段などについて伺う。

A 令和6年度から18公共施設と11民間施設を「クーリングシェルター」に指定しており、市内郵便局29局でも独自に同様の取り組みが実施されている。今後も、民間事業者の協力をいただきながら、拡充に向け取り組んでいく。

高齢者の熱中症予防対策については、市社会福祉協議会や民生児童委員等による訪問時の声掛けのほか、通いの場などでの注意喚起を行っている。

遮光・細霧冷房など農業設備の導入支援として、国や県の補助制度を活用した市の協調助成などを行っている。また、スマート農業技術導入支援をはじめ、「夏の熱中症等対策声かけ期間」を通じたリスク低減型の生産方式への転換を推進している。

災害対策として、渇水時は「渇水対応タイムライン」に沿って関係機関と連携する体制を構築している。線状降水帯などの発生に備え、秋田地方気象台からのホットラインや気象予報士の資格を持つ市職員の分析に基づき、公式ＬＩＮＥや防災ラジオなどの多重情報での発信体制で、早期の避難情報を発信している。冠水が懸念されるアンダーパスに対しては、遠隔監視装置の通報による遮断機を用いた車両進入防止策を講じている。

このほか、子どもの朝の居場所づくりについて質問しました。

災害対策の見直しについて



小須田逸子
（参政党）

Q 大曲地域と仙北地域は指定緊急避難場所が少ないが、洪水時の避難場所と住民の避難行動について伺う。

A 大曲地域と仙北地域は、洪水浸水想定区域が広く分布しており、洪水時に利用できない指定緊急避難場所があるほか、浸水深に応じて建物の2階以上への避難としている指定避難所もある。

最も重要なことは、避難が困難となる前に安全な場所へ早めに避難してもらうことであるが、指定避難所だけではなく、安全な地域にお住まいの親戚や知人宅への避難、自宅等の上階へ移動する「垂直避難」のほか、地域・福祉関係者と連携を密にしていただくなど、世帯の状況に応じて避難先や方法を事前に決めておくことも重要と考える。市としては、的確な情報提供により、早めの避難情報の周知・啓発に努めていく。

Q 災害時の水道・水の供給に関する計画について伺う。

A 飲料水は、500㎖入り2万7778本、2ℓ入り387本を備蓄している。また、3tと2tの給水車を各1台、可搬式給水タンク等を17基保有しており、給水車2台で1回当たり約1600人分の応急給水を行う体制を整えている。

大規模災害や長期間の断水等、市単独での対応が困難な場合は、災害時応援協定による支援のほか、相互応援に基づく支援を要請することとしている。

生活用水も避難生活を維持する上で重要と認識しており、被害状況に応じて給水車等の利用や関係機関への応援要請、民間事業所を含めた42の「防災用井戸」も活用して必要量の確保に努める。

災害に強い林道整備について



橋本　琢史
（たすきの会）

Q 林道について、災害復旧による対応から、予防保全（路盤整備・側溝整備）による対策転換が重要と思うが今後の方針について伺う。

A 本市の林道は、森林資源の循環利用や地域環境の保全を支える重要な基盤である。近年の豪雨の激甚化を踏まえ、被害を未然に防止・軽減する「予防保全型」の管理へ段階的に転換していくことが重要であると認識している。これまでの維持補修に加え、路面洗掘等を抑止するための排水機能の強化対策について、基幹となる主要路線から順次実施に向け検討し、災害に強い林道機能の維持・強化を図っていきたいと考えている。

Q 森林環境譲与税の今後の財源見込みと基金活用について伺う。

A 国の配分基準によりおおむね9千万円程度で推移するものと見込んでいる。基金の活用方針については、森林経営管理制度の推進、再造林等の補助や路網の維持・保全対策にも積極的に活用していきたいと考えている。

また、現場の林業事業者の負担軽減や予防保全的な改良が進むよう、森林環境譲与税により機動的な活用を検討していく。



南外地域の林道

自主防災組織の活動環境のあり方について



佐藤　隆康
（たすきの会）

Q 自主防災組織の活動環境と今後の組織のあり方について伺う。

A 昨今の激甚化・頻発化する災害に対しては、「公助」だけではなく、「自助」とともに「共助」の取り組みが必要かつ重要である。その中心的な役割を担うものとして、自主防災組織があり、その結成・活動の促進に取り組んでいる。

現在、３９４の自主防災組織が結成（組織率91・５％）されており、設立時にはヘルメットや折り畳み担架などのスターターキットを配布し支援しているが、活動実績の差や担い手が減少していることなどから、「自主防災組織等活動育成事業補助金」により、防災訓練等の活動や防災資機材・災害備蓄品等も支援することで、活発的な活動を行えるよう後押ししている。

また、毎年度、「自主防災組織育成指導者研修会」を開催し、最新の防災情報等を習得する機会を設けるとともに、市職員を派遣して防災講話を実施し、地域の災害リスクに関する助言や情報提供を行っている。

Q 防災士との連携および情報交換について伺う。

A 現在把握している防災士は１７９名であるが、引き続き把握に努める。防災士間の情報交換については、専門的知識や経験を共有する機会として「防災士研修会」を開催している。さらに、現在、防災士間の連携強化を図る「防災士連絡協議会（仮称）」の設立に向けた準備を進めており、防災士や自主防災組織への支援を充実し、地域防災力のより一層の向上に努めていきたい。

高齢者の肺炎予防の今後について



秩父　博樹
（公明党）

Q 23価肺炎球菌ワクチンの効果は、一般的にどの程度持続すると考えられているのか。また、既に23価ワクチンを接種した高齢者への結合型ワクチン（ＰＣＶ）接種について、国はどのような考え方を示しているのか。

A 国から示されてはおらず、接種済みの方への対応についても、国の予防接種基本方針部会において、「65歳を超える年齢の者については、70歳で接種機会を設けることを軸に、今後、本部会において検討する」ことが取りまとめられたものの、現時点で、国から明確な方針が示されていない。



Q 今後どのように対応されるのか伺う。

A やむを得ず定期接種の機会を逃した方には、予防接種法に基づく特例措置の対象となる場合があるので、個別に対応していく。

一方、接種後、一定の期間が経過したことによる効果の低下を懸念される方への対応については、国の部会において「70歳での接種機会を設けることを今後検討する」としているので、引き続き国等の動向を注視していく。

このほか、行政と移動販売事業者の連携による買い物弱者支援について質問しました。

市議のQ&A市の

財政調整基金について



髙橋　徳久
（だいせんの会）

Q 財政調整基金の積立目標額を40億円とすることについて伺う。

A 財政調整基金は、地方財政法に基づき、年度間の財源の不均衡を調整するとともに、災害復旧への対応や、経済情勢の変動による不測の事態に対応するために設置している。

積立額の法的な基準はないが、標準財政規模の５％から20％を積み立てている市町村が多く、県内13市中、７市で20％を超えている。本市の令和７年度末の基金残高は44億９千89万円で、標準財政規模（約２８９億円）の約15・５％であり、県内13市中、下から４番目である。

近年では、甚大な被害をもたらした平成29年７月の大雨災害からの早期復旧を図るため、11億円を復旧事業に充当した実績がある。近年の物価高に加え、激甚化・頻発化する自然災害を考慮すると、基金が不足することも想定され、まだ十分な余裕のある状態ではないと認識している。本市でも標準財政規模の20％を目標としたいが、学校統合の財源確保などを踏まえ、当面の財政運営においては、現在の水準を維持していきたい。

基金の運用に当たっては、積み増しを目的に一定額を確保するという考えはなく、必要性や緊急性などを精査した上で、基金の活用に努めている。

今後も市民生活に必要な事業の充実を図りながら、健全で持続可能な財政運営に努めていきたい。

このほか、新庁舎建設について質問しました。

空き家バンク制度の活用と地域課題の解決について



高橋　智也
（だいせんの会）

Q 空き家所有者の意向把握について伺う。

A さまざまな相談が寄せられる中、それぞれの事情や考え方を聞き取り、空き家バンク台帳とあわせ、相談台帳を作成し、情報として積み上げている。

Q 空き家所有者と活動場所を求める方々をつなぐ仕組みづくりが必要と考える。空き家を必要としている側のニーズの把握と庁内連携について伺う。

A 空き家所有者と活動場所を求める方々をつなぐ仕組みづくりは、空き家を単なる「個人の課題」ではなく、地域課題を解決するための「資源」として捉え直す、貴重な視点であると認識している。

全国的にも、空き家を子ども食堂やサロン等、地域交流や居場所づくりの施設として活用する事例が見られる。活用に当たっては責任の所在や経費などクリアしなければならない課題があるが、物件を案内できる制度に発展させていきたいと考えている。そのためにも、相談窓口に寄せられる空き家所有者の意向を蓄積するとともに、各部署に寄せられる「活動場所のニーズ」について、地域づくりの在り方を、分野を超えて検討する「地域づくり推進庁内会議」などで情報共有を図っていく。

なお、現時点での空き家バンク制度は、空き家所有者側からの情報発信を充実させているが、空き家を必要とする方の情報を収集し、マッチングさせるサービスも準備中であり、早期に実現できるよう取り組みを進めていく。

大仙市空き家バンク制度の詳細はこちら

市営住宅の管理運営について



佐藤　文子
（日本共産党）

Q 現在、市営住宅の共益費は各市営住宅の自治組織で、一部の入居者がその他の各入居者から集金している。しかし、共益費は公共性のある費用であることから、家賃とあわせて市が徴収するべきと考えるが、市の見解を伺う。

A 市営住宅の共益費は、電灯や揚水ポンプ、共同水栓など、共同施設等の維持管理および使用に要する費用を、家賃とは別に入居者の皆さまに負担していただいているものである。共益費の管理については、現在は主に各団地の自治会で、住民共助の取組の一環として担っていただいており、徴収については、自治会費などとあわせて集金されている例が多いものと認識している。

仮に、市が共益費を家賃と併せて徴収する場合には、自治会役員の徴収事務の負担軽減や、入居者間での金銭の受け渡しを減らすことができるなど、一定の効果があるものと考えている。

一方で、市が徴収する場合には、団地ごとに異なる費目や金額の算定方法を整理するとともに、収納方法や実費との差額の精算、滞納が生じた場合の対応などについても検討する必要がある。このため、まずは各団地自治会に対し、共益費の費目や金額、徴収方法、自治会役員の負担の実情および市による徴収についての意向等を確認するとともに、県内外の自治体の取組も参考にしながら、共益費の徴収事務の在り方を調査研究していく。

このほか、第10期介護保険事業計画策定にあたっての改定介護保険法との関連について質問しました。

公共施設の維持管理と整備方針について



安達　成年
（けやきの会）

Q 支障が生じている公共施設の維持修繕について伺う。

A 市の基本的な方向性としては、市民生活にとって密接かつ不可欠な施設なのかという観点をはじめ、緊急性や利用ニーズ、代替性、地域性などを総合的に判断した上で、優先度の高い施設から修繕を行っている。これまでも必要な修繕については随時行ってきているものの、雨漏りなどの大規模修繕は着手できていないが、優先度に照らしつつ、早期の修繕に向けて検討を進めている。

また、長期的な視点で、公共施設の更新や統廃合、長寿命化等を行うための「大仙市公共施設等総合管理計画」の改定を進めているところであり、新たなスキーム（仕組みや計画）を示す予定としている。今後も市民のニーズを捉えながら、本市の将来を展望した効率的かつ効果的な公共施設マネジメントに努める。

このほか、公共施設への屋外喫煙所の整備について、学生や若者が集える場所の整備について質問しました。



大仙市公共施設等総合管理計画の詳細は、
市ホームページ（右のQRコード）から

市議のQ&A 市のA

市立大曲病院の現状と課題ならびに将来像について



佐藤　芳則（けやきの会）

Q 市立大曲病院の現状と経営上の問題点について伺う。

A 当院は、精神科単科の公立病院として、地域の精神医療を支える役割を担ってきた。採算性のみでは確保が難しい政策的な精神医療の受け皿として必要な医療機関であり、今後もその役割を果たしていきたい。

入院患者数と病床利用率が経営強化プランの計画を下回る中、収益の確保が重要な課題であると認識している。令和9年度の計画終了を見据え、次期計画策定に必要な基礎分析を前倒しで進めていく。

Q 介護医療院等への機能転換の可能性について伺う。

A 介護医療院は将来の選択肢になり得るものと考えている。ただし、転換に当たっては、地域の需要、施設基準、改修費、人員、介護保険財政への影響、さらには精神科・認知症医療への影響などについて十分に検証する必要があり、現時点では具体的な転換計画や収支試算は行っていない。

当院では、15年ほど前から「精神科医療と認知症・介護を一体的に支える地域拠点」という考えの下、認知症医療への取り組みを進めてきた。今後は、秋田県の地域医療構想の策定状況も踏まえ、将来的な認知症医療への機能特化についても選択肢の一つとして検討していく。

公立病院として担うべき機能を明確にし、その機能を持続的に提供するために必要な病床数、病棟構成、人員配置および財政負担を一体的に検討していきたい。

終活支援について



挽野　利恵（公明党）

Q エンディングノートの役割を担う「健康おうえん手帳」の項目追加と、終活を相談・サポートできる体制があるか、終活に関するワンストップ窓口の設置について伺う。

A 「健康おうえん手帳」については、さらなる利便性の向上を図るため、全体的な見直し作業を進めており、預貯金や自動車など動産資産についても、必要な情報を記入できるよう見直しを行うとともに、医療・介護の情報に加え、本人と家族が終活を考えるきっかけとなるよう内容の充実に取り組んでいるところである。

終活の相談・サポート体制については、市内4カ所の高齢者包括支援センターを中心に、医療や介護、成年後見、財産管理、相続など、さまざまな相談を受け付けており、令和7年度には、13件の相談があり、内容に応じて関係機関と連携を図りながら、必要な支援につないでいる。

高齢者包括支援センターは、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、介護・医療・保健・福祉などのさまざまな面から高齢者を支える総合相談窓口であり、終活に係る相談の起点として、ワンストップ的な役割を担っている。今後は、当センターの機能や役割を伝えつつ、終活に関連するチラシを相談窓口に設置するなど、より一層の周知強化に取り組むとともに、多くの方が人生の最期まで安心して自分らしく暮らせるよう、相談しやすい体制づくりに取り組んでいく。

市立大曲病院の経営健全化計画について



石塚　柏
（だいせんの会）

Q 大仙市は精神科病院が全国一集中しており、収支面においても県立、公立、民間の三つの精神科病院が競合し、互いに消耗し合っている。市は、この状況をどう捉えているのか伺う。

A 県立病院は、県全体の精神科救急の拠点病院として、また、民間病院は精神科や心療内科のほか、内科を有し、県央の精神科救急医療圏の輪番制当番病院として機能している。

市立大曲病院は、認知症専門医が2名在籍し、認知症医療や退院支援、地域生活を支える医療・福祉・行政の連携に取り組んでいる。診療分野が重なる面はあるが、単に患者を奪い合い、消耗していると捉えるだけでなく、それぞれの特性を生かしながら機能を分担し、連携することが重要であると考える。今後は、県が進める新たな地域医療構想の協議に参画し、医療体制の確保に努めていく。

このほか、組織運営の改善について質問しました。



市立大曲病院

教育厚生常任委員会　行政視察・所管事務調査

7月8日から10日までの3日間、石川県白山市およびかほく市の先進事例の視察を行いました。

白山市では、認知症高齢者の見守り体制と認知症予防と健康づくりについて視察しました。認知症高齢者の見守りでは、協定事業者などと連携し、配達業務などの日常活動の中で異変を察知した際に市へ連絡する「ゆるやかな見守り」を実施するなど、地域全体で支える体制が構築されていました。健康増進事業では、軽度認知障害の早期発見を目的として、医療機関や大学等と連携し、運動や栄養指導を組み合わせた取り組みを実施し、医療費や介護給付費の抑制効果も確認されていました。

かほく市では、屋内遊び場「あそびの森かほっくる」を視察しました。利用者アンケートや要望を踏まえ、イベントの充実や施設機能の見直しを進めていました。また、隣接する「かほっくるプラス」にカフェやコワーキングスペースを整備し、多世代が利用できる交流機能を拡充するなど、利用者の声を継続的に施設運営へ反映し、子育て支援と地域のにぎわいづくりを一体的に進めていました。

（教育厚生常任委員会
委員長　石塚　柏）





石川県かほく市（写真左）と白山市（右）を訪れた行政視察

産業建設常任委員会　所管事務調査

7月15日に「玉川浄水場」の現地視察を行いました。

玉川浄水場は、第一・第二浄水場からなり、市内給水人口の約6割を担う基幹施設ですが、建設から50年以上が経過し設備更新の検討時期を迎えています。

当日は、現在も24時間体制で手動運転を行っていることや、建物がハザードマップの浸水想定区域に位置している現状などについて当局から説明を受けました。

更新の検討に当たり当局からは、宇津台浄水場の能力活用による適正規模化や、設計・建設を一括発注する「DB方式」などの検討を行い、コスト削減と工期短縮を図りながら令和18年度の本格稼働を目指す旨の説明がありました。

市民生活に欠かせない安全・安心な水道水を将来にわたり安定供給できるよう、施設の動向をより一層注視していきます。

（産業建設常任委員会
委員長　安達　成年）





玉川浄水場での所管事務調査

産業建設常任委員会　行政視察報告

7月27日から29日までの3日間、新潟県長岡市・上越市・糸魚川市の3市で行政視察を行いました。

上越市では、当市の玉川浄水場更新の参考とするため「城山浄水場」を視察しました。城山浄水場では水需要の低下を踏まえ、配水能力を適正化する「ダウンサイジング」により維持管理費を削減したほか、設計・施工・監理を一体で行う「DB方式」の採用や既存躯体の利活用により、完全無停止給水の下、工期短縮とコスト抑制を実現した先進的な更新事例について説明を受けました。

このほか、長岡市では「花火を活用した観光施策」、上越市牧区では「棚田保全と営農継続の取組」、糸魚川市では「雇用促進と多様な働き方の推進」および「駅北大火からの復興事業」について視察を行いました（紙面の都合で割愛）。

今回の視察で得た多くの知見を、今後の委員会活動に生かしていきます。

（産業建設常任委員会
委員長　安達　成年）





城山浄水場での行政視察（新潟県上越市）

市政懇談会でいただいたご意見・ご要望に対する回答について

６月23日から27日まで開催した、大仙市議会「市政懇談会」でいただいた意見等の一部を紹介します。幅広い分野にわたり多くの貴重なご意見をいただきました。今後の議会活動や市政運営の参考としていきます。

※紙面の都合上、ワールドカフェ方式のご意見は概要とし、対面方式で行ったご意見等は一部を抜粋して掲載しています。
※市議会のホームページに、いただいた全てのご意見等を掲載しています。
右QRコードまたはURLからご覧ください。
URL　https://www.city.daisen.lg.jp/archive/p20260414164231

【ワールドカフェ方式でいただいたご意見の概要】

テーマ：地域交通	
大曲	循環バスや路線バスの運行時間・便数の改善を求める意見が多く聞かれました。また、通院や買い物だけでなく、イベントや空港へのアクセス向上を望む声や、AI オンデマンド交通や移動販売など新たな交通サービスへの期待も多く寄せられました。
西仙北	「タクシー不足」「高齢者の移動手段の確保」「スクールバスの柔軟な運用」に関する意見が特に多く寄せられました。また､鉄道利用環境の改善（本数･駅設備･キャッシュレス対応）を求める声もありました。
中仙	免許返納後の買い物や通院の移動手段への不安が多く聞かれました。また、地域による交通格差やタクシー不足、夜間交通の不便さが課題として挙げられ、デマンド交通やボランティア送迎など、新たな移動支援の仕組みを求める意見が目立ちました。
テーマ：子育て支援	
大曲	教育環境や食育、学校施設の充実への関心が高く、地域の特色を生かした教育や魅力づくりを求める意見が多く聞かれました。また、地域行事の継承や若者の定住・雇用など、将来を見据えた子育て環境づくりを望む声も多く寄せられました。
西仙北	医療費助成や子ども向けイベントなど現在の子育て支援を評価する声がある一方、奨学金支援、不登校支援、公園整備など教育・子育て環境のさらなる充実を求める意見が多く聞かれました。また、若者の定住や地域全体で子育てを支える環境づくりを望む声も寄せられました。
中仙	学校統合やスクールバスなど教育環境への関心が特に高く、子どもの安全確保や保護者の経済的負担軽減を求める意見が多く聞かれました。また、若者の定住促進や不登校支援、地域全体で子育てしやすい環境づくりを望む声も多く寄せられました。
テーマ：道路・除雪・農業	
大曲	道路の安全対策や除雪環境の改善への関心が特に高く、歩行者にも配慮した維持管理を求める意見が多く聞かれました。また、有機農業や食育の推進など、農業と教育を連携させた取り組みを望む声も多く寄せられました。
西仙北	除雪や道路維持管理への関心が特に高く、空き家や道路の老朽化、除雪体制の改善を求める意見が多く聞かれました。また、農村部の将来を見据えたまちづくりや、公園・自然環境の整備を望む声も多く寄せられました。
中仙	道路や除雪の地域間格差の解消や計画的な維持管理を求める意見が特に多く聞かれました。また、農業の担い手確保や地元農産物の消費拡大、農業を持続できる環境づくりを望む声も多く寄せられました。


1


2


3


4



5

（写真１～３）ワールドカフェ方式で行われた大曲、西仙北、中仙地域

（写真４～８）対面方式で行われた太田、協和、神岡、仙北、南外地域


6


7


8

【協和・南外・神岡・仙北・太田地域の市政懇談会でいただいたご意見（抜粋）】

No.	地域	いただいたご意見	回　　答
1	協和	中山間地で大豆の生産をしている。平場の基準達成が困難であることを以前から農政局等に訴えているが、市の対応と言われている。また、数量払い制度がなくなり面積払いのみになった。市に対策を要望しているが、変わらない。イノシシの被害もある中で、農地を荒らしたくないと頑張っているが限界。	市は大豆を特産品にしようとしていますが、補助金のハードルが高く、値段が高い米に転換する人が出てきています。国の政策が一定化していないことも問題だと考えています。大規模農家だけではなく小規模農家に対しても美郷町のように市独自の補助を創設すべきと提言していきたいです。 中山間地に対する視点で補助対象の拡大や条件の見直しが必要と感じました。今後議論していきます。
2	神岡	乗合タクシーについて、刈和野方面へ行く方が多いが、神宮寺駅までしか行けない。刈和野の病院や買い物に行けるルートがあれば便利だという声をよく耳にする。	西仙北でも同様のご意見をいただきました。目的地とルートが合っていない現状を改善するため、病院や買い物への利便性を高めるよう当局に要望します。
3	南外	議員報酬が引き上げられたが、議員の数はそのままで給料を上げるのはおかしいという声がある。次の議会で定数を下げるなら納得する市民もいるのではないか。報酬が上がるのは悪いことではないと思う。	報酬は合併から20年間上がっておらず、その間定数は30人から24人に減らしています。報酬が低いと議員のなり手も集まりません。優秀な人、大仙市を出た人が戻って議員ができるようにしたいと思っています。定数についてはこれから検討していきます。
4	太田	太田に福祉バスがなくなって久しいが、高齢者団体で事業をする際足がない。他地域のバスを利用するにもかなり前から予約が必要で不便な状況。マイクロバスを復活させてほしい。	バスは経年劣化で廃止になり、今後はスクールバスを除き自前のバスを持たない方向と聞いています。市でも減りつつあるバスを、学校、市の行事を優先しながらやりくりしている状況です。調整の時期に早めに予約するなどの対応をお願いできればと思います。民間のバス利用に対する補助の要望はしています。 これまでの市政懇談会などでも地域交通に関するご意見をいただいているので、議会でも問題を整理して検討したいです。
5	仙北	大仙市の花火以外の魅力は米だと思う。田植え・稲刈り体験をセットにした米の販売パッケージがあれば観光や移住につながるのではないか。	貴重なご意見だと思います。昨年初めてふるさと納税が９～10億になりましたが、米価が高騰してしまい返礼品にできるお米が足りなくなってしまいました。ふるさと納税の返礼品にもできると思うので、今後検討していきたいと思います。 大仙市の米の収穫量は全国の市町村で２番目なので、とてもいいアイデアだと思います。すでに農業体験を実施しているところもあります。子どもに体験して知ってもらうことがいいと思います。農家が元気にならないと大仙市全体が元気にならないので、今後もいろいろな手を尽くして農業をアピールしていきます。



市政懇談会にご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。私たちは皆さまからいただいたご意見から、多くの気付きを得ています。９月の本会議でも、市政懇談会で寄せられたご意見に関連のある一般質問が出されました。議員一人一人が、いただいたご意見や要望を自分なりに研究し、一般質問や委員会での調査・審査などを行っています。これからも皆さまの声をしっかりと受け止め、議会活動に生かしていきます。

広報広聴常任委員会委員長　挽野　利恵

だいせん市議会だより　第86号　■発行／大仙市議会　〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町1番1号　TEL 0187-63-1111(代)　編集／大仙市議会広報広聴常任委員会　印刷／株式会社三森印刷

きかせて！あなたのミライ

大仙市の小学生が将来の夢を語るコーナーです。



福田（ふくだ）　来海（くるみ）　さん　（太田北小学校６年）

■私の将来の夢は、客室乗務員になることです。なぜかというと、以前、飛行機に乗ったとき、お客さんの出身国の言語で話していたり、飛行機を怖がっている子を笑顔で励ましたりしていて、どんなことにも冷静さを保って仕事をしている姿がかっこよかったからです。私もたくさんの人の役に立つ仕事に就き、みんなを笑顔にしたいなと思いました。■客室乗務員になるためには、さまざまな言語を話せる、何があっても冷静に対応できるなどの条件が多くありました。■私は英語が好きで、ＡＬＴの先生と英語での会話を楽しんでいます。これからも多くの人との会話を通してコミュニケーション力を高めたいです。そして、相手が気持ち良くなるようなきれいな言葉遣いを心掛けていきたいです。

12月定例会

日	月	火	水	木	金	土
11/22	23	24	25	26	27 本会議 議案等上程	28
29	30	12/1	2	3	4	5
6	7	8 本会議 一般質問	9 本会議 一般質問	10 各常任委員会 議案審査等	11 各常任委員会 議案審査等	12
13	14	15	16	17	18 本会議 委員長報告等	19

※定例会日程は変更される場合があります。
　変更内容は、議会ホームページでお知らせします。

市議会だよりのご感想などをお寄せください

市議会だよりのご感想や大仙市議会に対するご意見、ご要望などを次の方法により、議会事務局へお寄せください。

①郵　送／〒014-8601 大仙市大曲花園町1番1号
　　大仙市議会事務局あて
②ＦＡＸ／0187-62-8822（議会事務局専用）
③メール／gikai@city.daisen.lg.jp

こちらのＱＲコードからメールを作成いただけます。

議会の傍聴について

本会議および委員会は公開されており、傍聴することができます。
傍聴をご希望の方は、議会開会日に、市役所大曲庁舎３階の議会事務局窓口までお越しください。

請願・陳情について

12月定例会で審査される請願・陳情は、11月18日（水）までに提出されたもので、それ以降に提出されたものは、次の定例会での審査となります。

編集後記

委　員
佐藤　芳則

■議員になって約１年が経過し、その間、議会はもちろん各種委員会等いろいろなことを経験させていただきました。大仙市が抱える諸課題についても少しずつ理解してきたつもりではありますが、まだまだ圧倒的に知識･勉強が足りないと痛感している毎日です。■その中で、今私が思っているのは、「大仙市のこれからを考えるとき、私たちは今、何を大切にしなければならないのか」ということです。■子どもたちの未来、地域医療、農林商工業、公共交通、地域コミュニティなど、課題は一つではありません。そして、その考えも一つではありません。■だからこそ、市民の皆さまの声を聞き、議員同士が議論を重ね、より良い方向を探していくことが議会の役割だと考えています。■「だいせん市議会だより」が、議会の活動を知るきっかけとなり、家族や地域で大仙市の未来を考えるきっかけになればうれしく思います。■「皆さまの声を議会へ。そして、議会から皆さまへ」これからも、市民の皆さまと議会をつなぐ広報紙を目指してまいります。

Facebook と Instagram で議会の情報を発信しています

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Facebook　Instagram